

研修報告

## 『グローバル研修 保証人問題委員会 企画研修』

◇研修日：2021年6月12日（土）9：00～6月26日（土）23：59

◇方 法：オンライン

◇テーマ

①保証人問題委員会の取り組み報告（60分）

～2019年度保証人問題の実態調査の結果を中心に～

講師：江南厚生病院 川本 崇人

②医療ソーシャルワーカーの実践報告（30分）

～急性期病院と透析クリニックでのソーシャルワーク経験を踏まえて～

講師：安城更生病院 渡邊 啓后

◇受講人数：143名（会員：108名 非会員：35名）

## ◆アンケートコメント紹介◆

- ・透析病院に勤務するMSWとして共感できる内容でした。身元保証問題はどうしても特効薬的な対策を求めたくなりますが、そうではなく、いかに意思決定できるうちから患者や関連機関と話し合いができるか、また保証人がいなくても一機関のみで対応するのではなく地域で対応できる仕組み作りや啓蒙が必要だと改めて実感しました。あとは自分自身が具体的に何をやるか、できるかだと思いました。
- ・協会の物も含めて身寄りがない方、身元保証に関するマニュアル・ガイドライン等が整備され以前のように支援の中で困ることは少なくなっているように感じている。しかし支援に困るケースが全く無いわけではなく、転院先・施設入所先から身元保証を求められることはある。ガイドラインにこう書いてある、マニュアルに従うとこのような対応が望ましいという訴えだけでは残念ながら解決しない。なぜ先方が身元保証を求めるのか、なぜそれらを求める経緯に至ったのか、相手方の事情も汲み取った対応・支援が必要となり、時間と労力を要する。個々の支援機関だけではなく最終的な対応を行う行政も含めた共通理解、共通ルールの作成が求められるのではないだろうか。
- ・地域単位でのマニュアル作成を昨年度行い、身元保証人団体へつなげることが困難である方の関わりを検討してきました。ですが、身元保証に関して、入院して医療同意を得る所から困るのではなく、元気なうちにACPを行えるよう、関係機関が皆、勉強し、実践していかないと改めて感じました。

## グローバル研修 保証人問題委員会企画研修を終えて

委員長 川本 崇人

本研修は①MSWとして保証人問題に取り組んでいく必要性、②保証人代行団体を利用する際の様々な留意点を理解してもらうことを目的に研修を企画しました。申し込み状況からも伺えるように愛知県医療ソーシャルワーカー協会の会員だけでなく、非会員の方にも多くの申し込みを頂き、保証人問題に関する興味の高さを改めて再認識するとともに、保証人問題について考えるきっかけになった研修であると思います。

保証人問題は、決して特効薬があるわけではなく、地道な積み重ねが保証人問題解決に向け、欠かせないと思います。当委員会として協会内の活動にとどまることなく、地域の関係機関との支援ネットワーク構築を目標に協会外にも目を向けて当委員会の活動を展開していきます。